

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800404		
法人名	医療法人社団 昌徳会		
事業所名	グループホームかもめ ユニット1		
所在地	長崎県松浦市御厨町里免893番地		
自己評価作成日	令和4年9月4日	評価結果市町村受理日	令和4年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和4年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①時間にとられず自分のペースで生活し、自分らしく暮らしていただきたいと考えている。 ②出来ることは自分で行ってほしい、見守り声かけをしていくことで自信と達成感を持ってもらいたいと考えて支援している。 ③地域との交流を大切にしている ④食事を楽しんでもらいたいので行事の際は手作り弁当を作り、出している。 ⑤コロナ禍であっても家族との絆、交流を絶やささないよう心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の目の前の海は開放的で交通の便も良く、生活に便利な立地である。開設からの6項目からなる理念は職員に浸透し、起床、就寝、食事に時間の決まりは無く、利用者の生活リズムを崩さない支援を行っている。また、ゆとりのある入浴時間確保のために支援体制の見直しを行っている。敷地内にある菜園を利用者のために作り、収穫した野菜が食卓に上り、会話が弾んでいる。利用者の羞恥心や尊厳を守るさりげない工夫など支援の随所に理念の具現化の取組みが見える。経営母体の新体制の下、職場環境の整備が進み、居室のベッド全てを電動に交換し、利用者の褥瘡予防や職員の負担軽減に繋げている。また、資格取得支援制度の導入や有給休暇取得などの処遇改善で、職員のレベルアップやモチベーションアップを図り、働きやすい職場を目指している。利用者の尊厳と自由を守り穏やかな暮らしがある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はスタッフが常に目に入るところに掲示し月1度の会議で全員で唱和し理念に沿った支援を心掛けている。	法人の新体制移行に伴い、管理者と職員が理念の変更を検討した結果、これまでの理念の継続を決定している。利用者の力を活かし、達成感や張り合いのある暮らしの支援、ゆったりとした自分らしい家庭的な暮らしができるよう理念を共有し、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とは気軽に接し世間話などしている。一人暮らしの高齢者の悩み相談相手になったり手作り弁当を作った時は配っている。	自治会に加入し、近所の独居高齢者への配慮や住民とは挨拶や言葉を交わし、繋がりを大切にしている。コロナ禍で学生の職場体験等は中止しているが毎年、中学生からプランターの花が届いている。3年振りに開催予定の地区神社の祭りでは、事業所前での交流が楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ発生により体験学習や見学は中止にしているが交流は続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度実施しているがコロナ発生により外部からの出席は控えているが電話などによる情報交換は続けている。	年6回開催し、コロナ禍で現在は管理者と職員、法人の事務長の参加である。事業所の取り組みや今後の予定、事故報告など、写真付きの議事録で確認できる。ただし、規定の参加者への資料の配付は無く、議事録に意見や情報等の記載がない。	運営推進会議は、事業所の取り組みや課題を議題に、地域の理解と支援を得て運営に活かす重要な会議である。規定の参加者へ資料や議事録を配付し、意見等を聴取する方法を工夫し、会議の充実に繋げる取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の事情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題が発生した場合は行政や包括支援センターに問い合わせ解決するようにしている	介護保険の更新や申請は、管理者が本庁に出向く他、独居高齢者の入居時は、さまざまな手続きを支援している。包括支援センターとの連携、担当課の定期的な訪問もあり、相談しながら協力関係を築いている。市主催のリモート研修は職員の希望や内容に合わせ、受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度開催(5月8月11月2月にスタッフ振り分けしている)意見交換検討見直し実施し、スタッフ会議で報告	身体拘束廃止委員会が対策を検討し、年4回担当職員を決め研修会を実施している。拘束に当たる具体例など、手引書や事例から学習し理解している。玄関の施錠も夜間のみである。外出の素振りがあれば職員が同行し、言葉掛けに特に気を配り、抑圧感のないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、マスコミで取り上げられた事例を持ち寄り話し合い検討会を開いている。言葉遣いには特に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習の機会が少なく必要な時は包括支援センターへ相談するようにしている。今までに成年後見制度の利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には質問を受けながら丁寧に説明し、理解、納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、家族の面会があるときは必ず話をし近況報告をし、意見要望を尋ねている。	3ヶ月毎に写真満載のホーム便りを発行し、日頃の様子を伝えている。コロナの感染状況に合わせ、窓越しや玄関先での面会で顔が見えるよう対策を講じ、テレビ電話、ラインの動画送信など、家族等と繋がる工夫がある。利用者は日常会話から、家族は訪問時や電話で要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議を開催し意見を出し合っている。法人側より参加してもらい要望を上げている。	スタッフ会議には、法人の事務長の参加があり、意見や要望を話し合っている。今年度は電動ベッドやリクライニング車椅子の購入等反映し、利用者・職員の身体疲労軽減にも繋がっていることが確認できる。職員は管理者に相談ごとを気軽に伝えており、資格取得支援制度もあり、働きやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和3年9月より経営者が変わり給与体制の整備、雇用契約書の見直しがあり夏季賞与より人事許可制となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者が変わり積極的に支援取り組みを実施 資格取得支援制度制作委員会発足		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ発生により行事はしていないが必要な時は情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えを十分に傾聴し話し合い向き合い解決するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至る経緯については詳しく聴き何を希望されているのかを把握し一緒に考えていく。可能な場合は入所前訪問をし面識を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の想いをよく聴き可能な限り柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすことで学びも多く良好な関係を保つことができている。人生の先輩としていろいろな事を尋ね教えてもらうことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方だったり面会が少ない方には電話や手紙を利用している。かもめ情報誌を3か月ごとに発送し日常の生活の様子を知らせている。テレビ電話や動画を送ったり、Instagramでの情報発信を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容室は行きつけを利用してもらっている ・墓参り希望時は同行している(盆) 	利用者が馴染みの理美容室を利用する時は職員が送迎している。身内の葬儀には人との接触が少ない時間を見て対応したり、盆の墓参りは家族と職員が同行している。移動図書館の利用や新聞購読などこれまでの生活習慣や趣味の継続について支援していることが見てとれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元気な方が他利用者に対し声かけや手助けなどされているときは感謝の気持ちを伝えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても電話などにより様子をうかがっている。亡くなられた場合はお参りをしお別れをさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を最優先に考え対応している。コミュニケーションが難しい時は家族に相談し話し合いの場を作っている。	利用者の思いや意向を大切にしながら柔軟な支援を行い、起床、食事、就寝の時間は自由である。難聴がある場合は、耳元で話したり筆談している。意思疎通が困難な場合は表情や仕草から、また家族とも相談しており、会話の中で新しい情報があれば、生活記録簿に記している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、居宅ケアマネ・医療機関よりサマリーなどで情報を得ている。可能であれば		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり時間を気にする事のない自由な生活を送ってもらっている。できる力を見極め褒めてあげることができる自信を持ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケア会議を開き担当者は他の職員に意見やアドバイスをもらい計画に活かすようにしている。モニタリングは毎月行っている。	毎日のケアプランの実施状況は生活記録に記載し、毎月、担当職員がモニタリングを行っている。職員は、毎月のケア会議や3ヶ月毎のカンファレンスで利用者の状況を把握、共有している。家族の意向はケアプラン作成前に聞き取り、主治医の意見や個別ケアを取り入れたケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、連絡帳、生活チェック表を利用し情報を共有している。実践の中から介護の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ出来る範囲での支援を行うようにしている。外出希望時同伴する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ発生より集いの場等への参加はしていないが移動図書を利用し趣味の読書を楽しんでもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には法人が掛かりつけ医となっているが、希望するところを受診するようにしている。病院は近くにあり24時間体制で連携している。	かかりつけ医の継続は家族と本人の意向に沿っており、現在は全利用者が法人医療機関の毎月の訪問診察を受診している。他科受診時は状況に応じて家族や職員が同行し、互いに結果を報告している。24時間対応の医療連携体制の夜間緊急時の対応を見直し明確にし、職員の理解と安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有の為、連絡帳生活記録、熱型表を作成し異常の早期発見に努めており必要時は情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供、入院中の様子を尋ね家族に連絡している。入院中の洗濯物の洗いは中止している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時看取りについて説明は行っているが最終的には家族と主治医で本人にとって最善と思われる方向を慎重に話し合い決定している。	看取りの指針は無く、事業所は看取りを行わないとし、利用開始時に家族へ説明している。重度化など利用者の状態に応じて家族や主治医と話し合い、入院や他施設の紹介など家族の希望に対応している。ただし、重要事項説明書には指針の作成や看取り介護を行うと明記しており、事業所の方針と差異がある。	家族の理解と安心を得るために、看取り介護の方針を明確にした指針作成と重要事項との差異の是正が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアル作成、また、消防職員による指導実演を受けている。AEDの取り扱い、救急蘇生法等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災対策計画、災害対策、原子力災害避難対策作成。備蓄品の確保、ハザードマップ掲示 消防設備自主点検実施(3か月ごと)	年2回、消防署立会いの火災避難訓練を夜間想定で実施している。各種マニュアルの作成や備蓄、非常持ち出し品を整備すると共に、近隣住民の協力の約束を得ている。ただし、ほぼ毎月災害や消火避難の自主訓練を行っているものの、スタッフ会議での報告に終わり、記録の整備はこれからである。	自主訓練での気づきや課題を次に生かすためにも、実施報告書等の作成や課題解決に向けた取組みができるよう検討、工夫が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個人の家と考え対応している。日常の声かけには名前を呼ばせてもらっている。	職員は、利用者を苗字にさん付けで呼んでいる。排泄の失敗等、本人の自尊心や羞恥心に配慮したさりげない支援を心掛けている。個人情報の取り扱い扱いは、ホーム便りの写真掲載を含め家族に説明し、同意の署名を得ている。書類等の保管場所も適切である。また、職員は守秘義務の誓約書を提出し、その内容を理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不穏な行動がある場合はしばらく様子を見て刺激しないように声かけをし落ち着かせるようにしている。意思疎通が難しい方は動きや表情の変化を見るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には個人の都合を優先しているが、都合がつかない場合は理由をしっかりと説明し後日実行している。起床、就寝、食事時間に決まりはなく自由です		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人のお気に入りの服を着てもらうが季節感がなかったり夏場の重ね着は注意している。理美容室は行きつけを利用している。化粧品など要望があれば購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は旬のものを使い下ごしらえは利用者にお願している。つわ、ふき、芋づるの皮むき等は競って参加され食卓に出ると喜ばれる。誕生日には要望の献立を出すようにしている	献立表は職員が作成し、法人の管理栄養士がチェックしたものを基本に、旬の食材や菜園の野菜で職員が調理している。利用者は野菜の皮むきやテーブル拭きなど手伝っている。誕生日は希望の献立で祝い、行事食、差し入れの新鮮な魚の刺身や手作りおやつ、嗜好に対応した別メニュー等利用者が楽しめる食事となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表に水分量、食事量の記録をし不足しているときは状態に合わせて補給・補食を行うようにしている。夏・冬7日分の献立を病院の管理栄養士にチェックしてもらいコメントをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ実施。できない方には介助し個人にあったブラシを使用。定期的に洗浄剤を利用して洗浄している。補助具利用		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間を見て排泄を促している。オムツの方でも不穏な動きを見て排便だけはトイレで済ませている。昼間はつかまり立ちが可能であればトイレ介助している。	職員は生活チェック表を活用し、利用者の排泄リズムを把握共有し、声掛け誘導を行っている。日中は座位排泄を基本とし、夜間も排便はトイレで行い、ポータブルトイレは使用の都度、処理している。利用者の排泄状況を検討し、布パンツからリハビリパンツに変更しても、また布パンツの使用へと、きめ細かい支援の事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により全スタッフが把握できている。便秘に対してはレクリエーション参加を促し水分補給、食物繊維の多いものを摂るようにしている。改善がない場合は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前3名と午後3名入浴することでゆっくり時間をかけ介助ができるようになった。拒否があるときはゆっくり理由を聞けるようになった。	週3回の入浴を基本としており、利用者の気分や体調に応じて対応している。車椅子の利用者も浴槽へ浸っている。職員は利用者が入浴を楽しめるように支援体制を見直し、利用者、職員共にゆとりのある入浴になり、喜ばれており、季節の菖蒲湯やゆず湯、職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をすると夜眠れなくなるのでできるだけ昼間は動いてもらうようにしている。心配事があるときは話を聴くようにしている。不穏が強いときは主治医に相談し頓用で服用してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報紙個別に綴じており誰でも見られるようにし特に副作用については注意してみている。新しく処方があった薬については医療機関へ効果を連絡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力にあった手伝いをしてもらい希望があれば外出に同行している。自分の財布を持ち買い物に出かけてもらっている。昔ながらの食卓になじみがあるツツ、芋づる、蕎麦の皮むきなどは競って参加され会話も弾んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればできる限り家族とも連絡しあい希望に沿うようにしている。お盆の墓参りに同行	コロナ禍の中では感染リスクを避けており、現状は以前のように気軽に外出は出来ないものの、初詣や近辺の散歩など、感染状況を見ながら少人数で出掛けている。更に、屋上での桜やつつじの花見、日光浴や外気浴等、利用者が外気に触れ気分転換となるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在コロナ禍で外出できないが希望があれば少額の現金を持ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話を入れ直接話してもらっている。直接の依頼があればはがきや手紙は代読している。携帯電話は自由に使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フロアに季節感を味わってもらえるようその時期に合ったものや作品を飾っている。庭には季節の野菜を植えるようにしている。	リビングは日当たりも良く、玄関や各所に季節の花が生けられ、壁の貼り絵と共に季節を感じることができる。利用者は自由に寛いでおり、テレビ鑑賞や風船バレーを楽しむ様子が覗える。畳の間やキッチンからの香りは食欲をそそり、家庭的で生活感がある。掃除や換気が行き届き、ゆったりと居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外に出る機会が少ないので玄関前にソファを置き狭いが空間を作り自由に使ってもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には使い慣れたもの、大切にされているものを持ち込んでもらうようにしている。ご主人の位牌、家族の写真など自由に持ち込んでもらっている。	居室は電動ベッドとサイドテーブル、クローゼットを設置しており、自宅からテレビや壁掛け時計、目覚まし時計、写真など見慣れた馴染みの物を持参している。掃除や換気は職員が行い、清潔で臭気もない。車椅子が動作しやすい配置で整理している他、好きな絵を飾ったり、外出用の帽子掛けがあるなど、暮らしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりにくい場所には目印を付け見守りを行っている。車いす利用者が多いので自走時の事故がないよう環境整備を心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800404		
法人名	医療法人社団 昌徳会		
事業所名	グループホームかもめ ユニット2		
所在地	長崎県松浦市御厨町里免893番地		
自己評価作成日	令和4年9月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和4年	月	日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①時間にとらわれず自分のペースで生活し、自分らしく暮らしていただきたいと考えている。 ②出来ることは自分で行ってもらい、見守り声かけをしていくことで自信と達成感を持ってもらいたいと考えて支援している。 ③地域との交流を大切にしている ④食事を楽しんでもらいたいので行事の際は手作り弁当を作り、出している。 ⑤コロナ禍であっても家族との絆、交流を絶やささないよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はスタッフが常に目に入るところに掲示し月1度の会議で全員で唱和し理念に沿った支援を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とは気軽に接し世間話などしている。一人暮らしの高齢者の悩み相談相手になったり手作り弁当を作った時は配っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ発生により体験学習や見学は中止にしているが交流は続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度実施しているがコロナ発生により外部からの出席は控えているが電話などによる情報交換は続けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題が発生した場合は行政や包括支援センターに問い合わせ解決するようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度開催(5月8月11月2月にスタッフ振り分けしている)意見交換検討見直し実施し、スタッフ会議で報告		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、マスコミで取り上げられた事例を持ち寄り話し合い検討会を開いている。言葉遣いには特に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習の機会が少なく必要な時は包括支援センターへ相談するようにしている。今までに成年後見制度の利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には質問を受けながら丁寧に説明し、理解、納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、家族の面会があるときは必ず話をし近況報告をし、意見要望を尋ねている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議を開催し意見を出し合っている。法人側より参加してもらい要望を上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和3年9月より経営者が変わり給与体制の整備、雇用契約書の見直しがあり夏季賞与より人事許可制となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者が変わり積極的に支援取り組みを実施 資格取得支援制度制作委員会発足		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ発生により行事はしていないが必要な時は情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えを十分に傾聴し話し合い向き合い解決するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至る経緯については詳しく聴き何を希望されているのかを把握し一緒に考えていく。可能な場合は入所前訪問をし面識を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の想いをよく聴き可能な限り柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすことで学びも多く良好な関係を保つことができている。人生の先輩としていろいろな事を尋ね教えてもらうことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が遠方だったり面会が少ない方には電話や手紙を利用している。かもめ情報誌を3か月ごとに発送し日常生活の様子を知らせている。テレビ電話や動画を送ったり、Instagramでの情報発信を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・理美容室は行きつけを利用してもらっている ・墓参り希望時は同行している(盆)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元気な方が他利用者に対し声かけや手助けなどされているときは感謝の気持ちを伝えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても電話などにより様子をうかがっている。亡くなられた場合はお参りをしお別れをさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を最優先に考え対応している。コミュニケーションが難しい時は家族に相談し話し合いの場を作っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、居宅ケアマネ・医療機関よりサマリーなどで情報を得ている。可能であれば@		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり時間を気にする事のない自由な生活を送ってもらっている。できる力を見極め褒めてあげできる自信を持ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケア会議を開き担当者は他の職員に意見やアドバイスをもらい計画に活かすようにしている。モニタリングは毎月行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、連絡帳、生活チェック表を利用し情報を共有している。実践の中から介護の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ出来る範囲での支援を行うようにしている。外出希望時同伴する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ発生より集いの場等への参加はしていないが移動図書を利用し趣味の読書を楽しんでもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には法人が掛かりつけ医となっているが、希望するところを受診するようにしている。病院は近くにあり24時間体制で連携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有の為、連絡帳生活記録、熱型表を作成し異常の早期発見に努めており必要時は情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供、入院中の様子を尋ね家族に連絡している。入院中の洗濯物の洗いは中止している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時看取りについて説明は行っているが最終的には家族と主治医で本人にとって最善と思われる方向を慎重に話し合い決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアル作成、また、消防職員による指導実演を受けている。AEDの取り扱い、救急蘇生法等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災対策計画、災害対策、原子力災害避難対策作成。備蓄品の確保、ハザードマップ掲示 消防設備自主点検実施(3か月ごと)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個人の家と考え対応している。日常の声かけには名前を呼ばせてもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不穏な行動がある場合はしばらく様子を見て刺激しないように声かけをし落ち着かせるようにしている。意思疎通が難しい方は動きや表情の変化を見るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には個人の都合を優先しているが、都合がつかない場合は理由をしっかりと説明し後日実行している。起床、就寝、食事時間に決まりはなく自由です		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人のお気に入りの服を着てもらうが季節感がなかったり夏場の重ね着は注意している。理美容室は行きつけを利用している。化粧品など要望があれば購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は旬のものを使い下ごしらえは利用者にお願している。つわ、ふき、芋づるの皮むき等は競って参加され食卓に出ると喜ばれる。誕生日には要望の献立を出すようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表に水分量、食事量の記録をし不足しているときは状態に合わせて補給・補食を行うようにしている。夏・冬7日分の献立を病院の管理栄養士にチェックしてもらいコメントをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ実施。できない方には介助し個人にあったブラシを使用。定期的に洗浄剤を利用して戦場している。補助具利用		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間を見て排泄を促している。オムツの方でも不穏な動きを見て排便だけはトイレで済ませている。昼間はつかまり立ちが可能であればトイレ介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により全スタッフが把握できている。便秘に対してはレクリエーション参加を促し水分補給、食物繊維の多いものを摂るようにしている。改善がない場合は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前3名と午後3名入浴することでゆっくり時間をかけ介助ができるようになった。拒否があるときはゆっくり理由を聞けるようになった。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をすると夜眠れなくなるのでできるだけ昼間は動いてもらうようにしている。心配事があるときは話を聴くようにしている。不穏が強いときは主治医に相談し頓用で服用してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報紙個別に綴じており誰でも見られるようにし特に副作用については注意してみている。新しく処方があった薬については医療機関へ効果を連絡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力にあった手伝いをしてもらい希望があれば外出に同行している。自分の財布を持ち買い物に出かけてもらっている。昔ながらの食卓になじみがあるツワ、芋づる、落の皮むきなどは競って参加され会話も弾んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればできる限り家族とも連絡しあい希望に沿うようにしている。お盆の墓参りに同行		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在コロナ禍で外出できないが希望があれば少額の現金を持ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば電話を入れ直接話してもらっている。直接の依頼があればはがきや手紙は代読している。携帯電話は自由に使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フロアに季節感を味わってもらえるようその時期に合ったものや作品を飾っている。庭には季節の野菜を植えるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外に出る機会が少ないので玄関前にソファを置き狭いが空間を作り自由に使ってもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には使い慣れたもの、大切にされているものを持ち込んでもらうようにしている。ご主人の位牌、家族の写真など自由に持ち込んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりにくい場所には目印を付け見守りを行っている。車いす利用者が多いので自走時の事故がないよう環境整備を心掛けている。		